妙安寺だより

テレフォン法話　092(751)6084

彼岸会　（ひがんえ　梵語でパーラミター）

お彼岸は、春分の日と秋分の日を中日とする前後３日間の合計７日間を言います。
国民の祝日に関する法律によれば、春分の日は自然を讃え、生物を慈しむ日、秋分の日は祖先を敬い、亡くなった人を偲ぶ日と定められています。
お彼岸に法要をするのは、昼夜当分の日であるところから、仏教の中道の教えにちなんで行なうという説やいろいろな説があります。
彼岸は、梵語でパーラミター（波羅蜜多）の漢訳「到彼岸」からきた言葉で、「迷いの世界から、悟りの世界にいたる」という意味です。
仏教では悟りへの道として、布施・持戒・忍辱・精進・禅定・知恵の六波羅蜜がいわれます。
【布施＝ふせ】は人に施すこと。【持戒＝じかい】は戒めを守ること。【忍辱＝にんにく】は耐えること。
【精進＝しょうじん】は努力すること。【禅定＝ぜんじょう】は心を落ち着けること。【知恵＝ちえ】は真理に基づく考え方や生き方をすること。
お彼岸は、こうした仏教の教えを実践する仏教週間とも言えるでしょう。
また、先祖を偲び、自分がいまあることを感謝して、先祖の供養をするとともに、自らも極楽往生できるよう精進したいものです。
お彼岸の入りには、家の仏壇をきれいにし、季節の花、初物、彼岸団子、春にはぼた餅、秋にはおはぎなどを供えます。さらに、菩提寺で行なわれるお彼岸の法要にも参加したいものです。

月　見

名月とは、「陰暦8月15夜の月。また、陰暦9月13夜の月」（小学館・国語大辞典）
十三夜は日本だけの行事で、日本古来の月祭りであったといわれています。
現在では、九月の満月（仲秋の名月）の日にお月見をするのが一般的になっています。
お月見には、秋の七草を飾り、三方にのせた月見団子、季節の果物や野菜を供えるのがならわしです。
また、十五夜が曇りで月見ができないために、十五夜の前日を待宵月（まちよいづき）、十五夜の次を十六夜（いざよい）、そのほかに、十七夜の立宵月（たちまちづき）、十八夜が居待月（いまちづき）、十九夜が臥待月（ふしまちづき）・寝待月（ねまちづき）、二十夜が更待月（ふけまちづき）と名づけて、名月を惜しみました。

秋季お彼岸お施餓鬼法要の案内

9月20日（土・お彼岸の入り）ならびに**9月23日（火・お彼岸の中日）**は、**午前11時より　法華経読誦回向**

９月２６日（金）　正　午　　**お　ト　キ**
午　後　１　時　　**お　施　餓　鬼　法　要**
午　後　２　時　　**法　　話**

なお、ソトバ供養御希望の方は、早めにお申し込み下さい。　　**1霊位　２，０００円**

住職儀
このたび、頚椎の後縦靭帯骨化症が再発し、治療のため7月9日に入院、同16日に手術を受け、31日退院いたしました。
現在はリハビリ中です。また、腰部にも頚椎と同じ症状が出ている関係から、9月初めの診察によっては、再入院と手術の可能性があります。
もし入院となれば、年内の復帰が不可能になり、お寺での法要以外は、副住職に任せますのでご了承下さい。